

西光寺だより

第二五六号 令和五年 八月一日発行

■今月のカレンダー■

われもたすかり 人もたすかる というのが 仏教の教え

ご門主(本願寺住職)は、二〇一六年十月一日、伝統奉告法要において『念仏者の生き方』と題してご親教(ご門主のご法話)を述べられました。

その冒頭に、

仏教はもともと仏法と呼ばれていました。ここでいう法とは、

この世界と私たち人間のありのままの真実ということであり、

これは時間と場所を超えた普遍的な真実です。

そして、この真実を見抜き、目覚めた人を仏陀といい、

私たちに苦悩を超えて生きていく道を教えてくれるのが仏教です。

と示され、続いてその中心の一つである縁起について、

「縁起」とは、その一瞬ごとにすべての物事は、原因や条件が

互いに関わりあつて存在しているという真実です。

ともお示しであります。

縁起を意味するインドの言葉を直訳すると、「共に生じる、繋がりの中で生じる」という意味だそうです。

数年前に放映されていたCMに「世界は誰かの仕事でできている」というフレーズがありました。一見関係なさそうな仕事や会社が、実は繋がっていたことを上手に表現していました。

また、私が愛用している白衣は、もうずいぶん前に亡くなられたご門徒のおばあさんが、私のためにと蚕を育て、繭から糸を紡ぎ、布に織ってくださったものです。

それを最近、母が白衣に仕立ててくれました。私はそのおばあさんの顔も知りませんし声も聞いたことはありません。蚕、おばあさん、母が、今私を包んでくれていきます。

この縁起という真実は、すべてが互いに支え合っていくというあたたかい人間関係を築き、良き社会をつくりますが、一方で、私が生きるためには他のいのちを奪わねばならぬという、厳しく悲しい仕組みが内在していることも知らなくてはなりません。

この真実を教えられた私たちは、自分のいのちを慈しむことはもちろん、支えてくれる人びとや、動物、生活を助けてくれる物などに常に感謝する生き方をめざしたいと思います。

仏教婦人会総連盟の機関誌『めぐみ』二五五号に掲載されていた住職さんと坊守さんのインタビュー記事。

お二人は新型コロナウイルス感染症蔓延の中、ご夫婦で布マスクを作つてご門徒に配布することを思いつかれました。

ガーゼやゴムなどの材料を仕入れにいかれましたが、商品がありません。お金があつても物が無いという初めての経験をされました。

その後、少しずつ買えるようになりましたが、その包みの状態を見て、マスクを作りやすいようにと工夫されており、自分が知らないところで、多くの人の工夫とご苦勞を感じたと言われます。

そして、ご住職が作ろうと声をかけてくれたこと、材料を買うことができたことなど、誰かのためにしてきたことより、私が誰かからしてもらったことのほうがずっとたくさんありました、と言われます。

マスク一枚にもたくさんの人たちの労力と工夫、時間がかけられていることを知り、ご恩を感じながら生きる。それを、「ていねいに生きる」と表現されました。

「縁起」という真実の中で自分ひとりだけが幸せに生きるのではなく、周りのすべての人とともにお互いの幸せを願い、ていねいに生きていきたいですね。

(法語カレンダー 解説書より)

◆九・十月の行事◆

・九月 〃 在家報恩講

・九月 十五日 (金)

大谷本廟墓参 (みのり講・穂積講の方)

午後二時

大谷本廟お茶所

※なお、墓参の際、念珠・経本・千円を宜しくお願い致します。

行かれない方は千円を西光寺、又はお逮夜参りの際によりしく
お願い致します。自己判断のうえ、ご自由にご参加ください。

・九月 二十三日 (土)

仏教婦人会報恩講

午後一時

西光寺本堂

・十月 三日 (火)

秋季永代経法要

午後二時・午後七時

西光寺本堂

◎ 本願寺派布教師 宮部 誓雅 師



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>